

口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業

分野1

産業動物診療分野における全国的臨床実習システムの構築

産業動物臨床実習プログラム (スタンダード編) の概要と実績

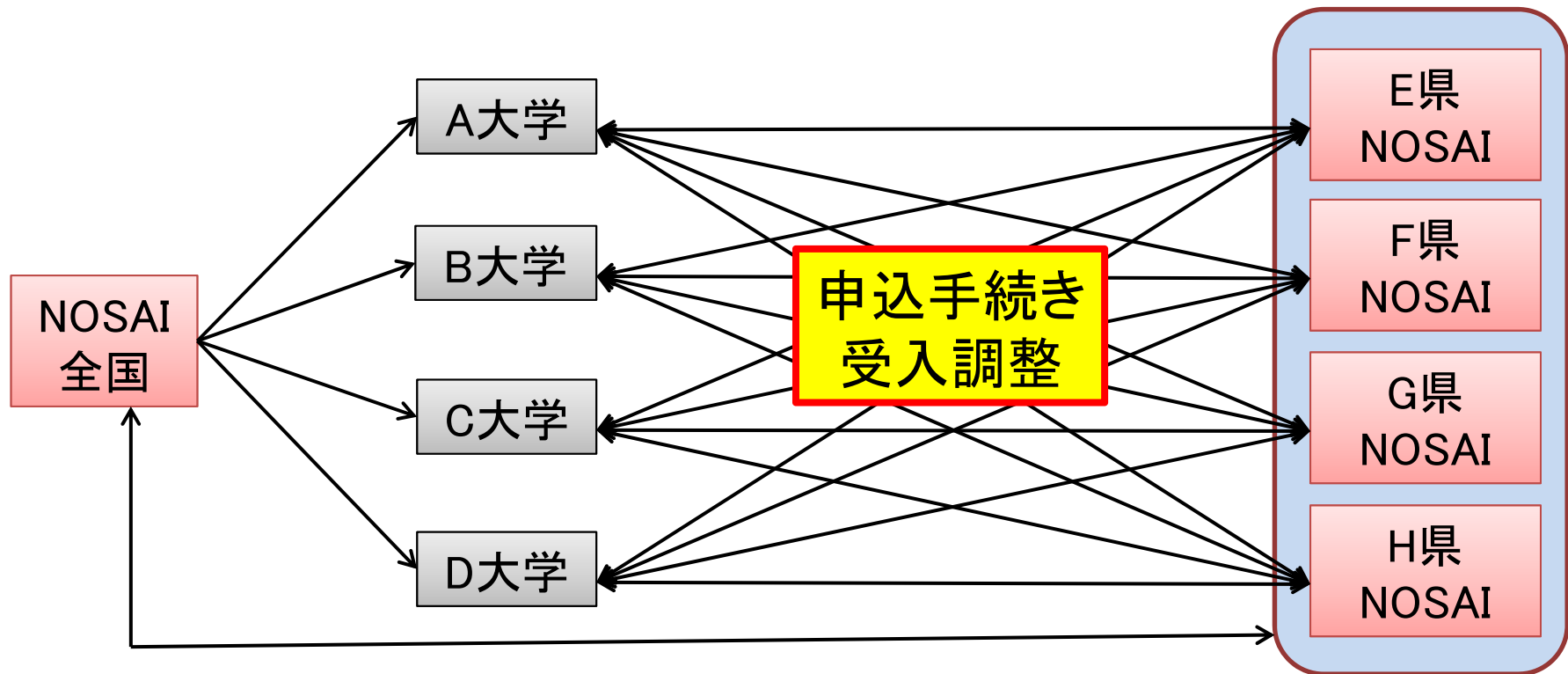
岐阜大学応用生物科学部

大場 恵典

NOSAIにおける臨床実習（H23まで）

H23まで

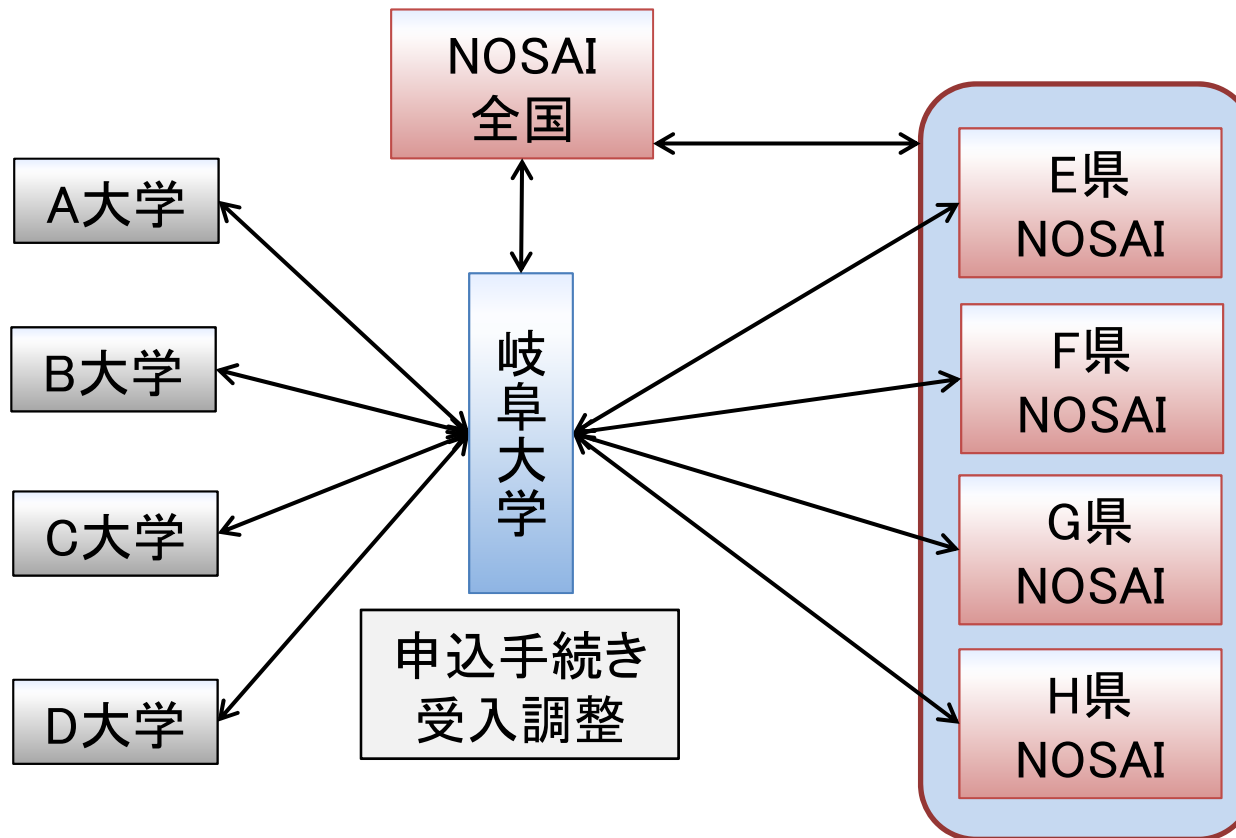
- 事業主体はNOSAI全国で、
「農業共済団体等における獣医学部(科)学生の
夏期臨床実習」として実施
- 申込み・受入調整等の手続きは、
各大学と各NOSAIの間で個別に対応



NOSAIにおける臨床実習(H24)

H24

- NOSAI全国のもと、本事業の「産業動物臨床実習プログラム」
として実施
- 申込み窓口を**岐阜大学に一元化**
- 事務**手続きの効率化**と**教育効果の向上**を図る



産業動物臨床実習プログラムのポイント

①参加申込窓口の一元化

全国の獣医系大学からの申込みを岐阜大学で取りまとめ、
各県のNOSAIへ一括申込み

➡ **受入調整が容易になった**

②手続き方法の確立

参加申込・実習実施・実習終了後の手続きを確立

➡ **手続きが確実・効率的になった**

③学生に向けた取り組み

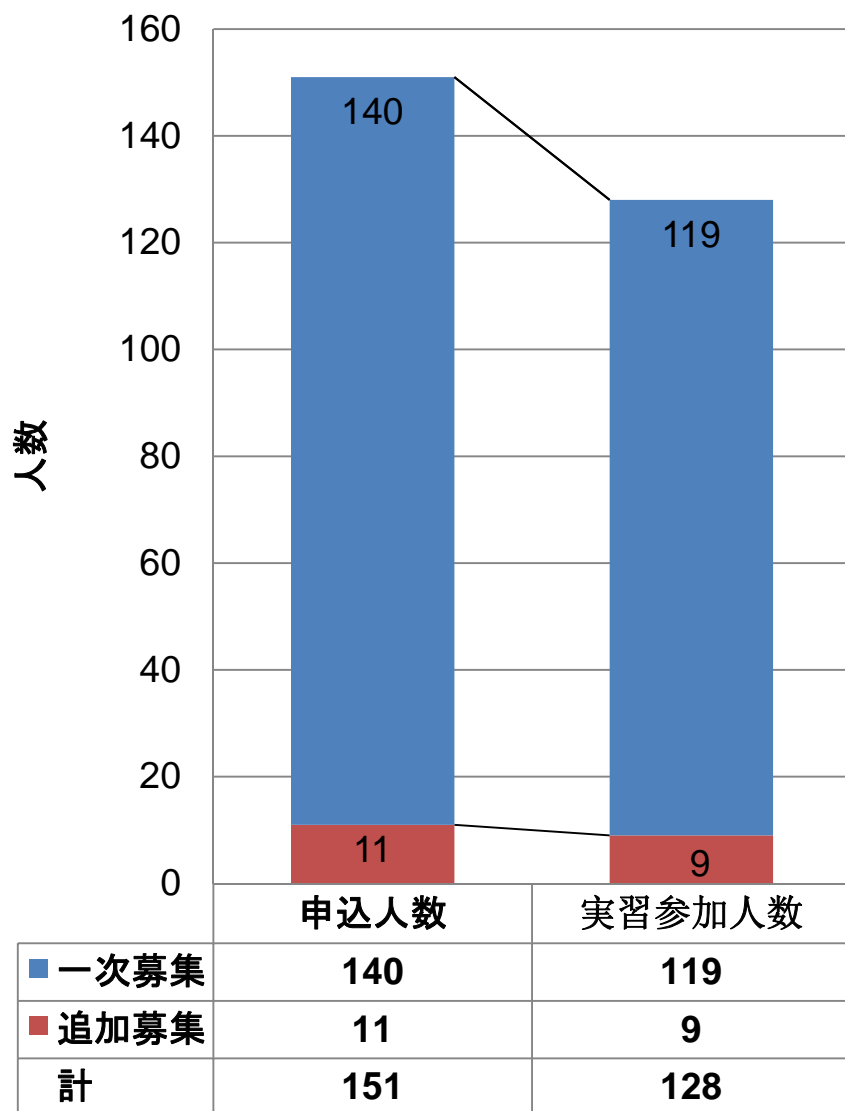
学生向け手引きを作成。実習の意義・手続き・準備・内容等を周知
実習日誌・アンケートの提出を課す
修了証授与

➡ **教育効果が向上した**

産業動物臨床実習プログラムの概要

- 受入機関: **全国**のNOSAI(北海道を除く)
- 対象 : 獣医学生**1～6年生**
- 費用(交通費、宿泊費など): **学生負担**
- 募集期間: **一次募集**:4月末～5月末(約1か月間)
(**追加募集**を7月に実施)
- 実習期間:7、8、9月の3か月間のうち**7～14日間**
- 実習内容:NOSAI獣医師の診療に同行して、疾病の
診断・治療、飼養・衛生管理などを学ぶ

申込人数および参加人数



- 申込みは151名
一次募集140名+追加募集11名

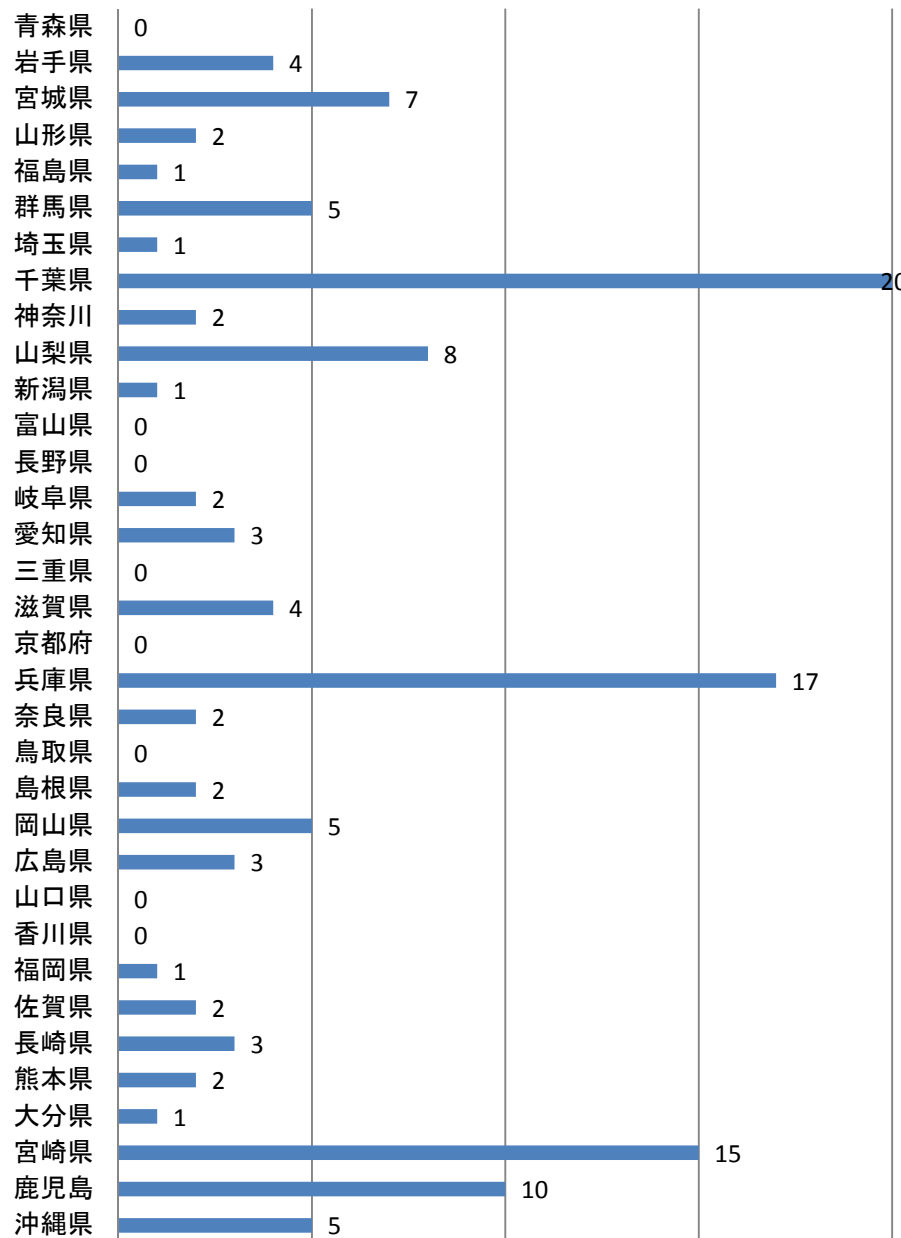


受入調整

- 参加者は128名(85%)
23名(15%)が調整できず
その理由: 日程、宿泊施設

多くの学生が参加

各県NOSAI別の実習受入人数



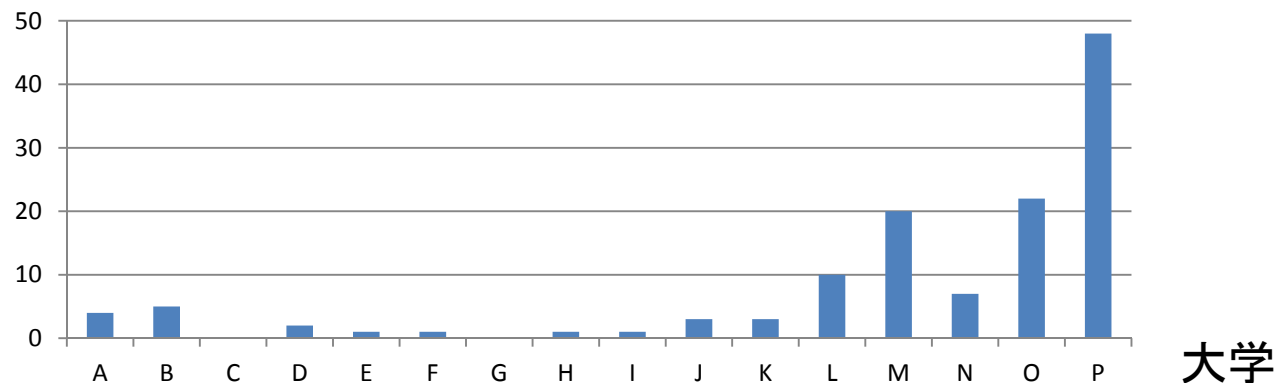
- 受入可能34のNOSAIのうち、26のNOSAIで受入れがあった
- 多くのNOSAIで、1～5名を受入れた
- 千葉県・兵庫県・宮崎県・鹿児島県の4NOSAIでは10名以上を受入れた
- 学生が希望する実習先は
 - 畜産地域の診療所
 - 宿泊施設がある診療所
 - 出身地の診療所

**NOSAIは
多くの学生を受入れた**

大学別参加人数(123名)と単位取得割合

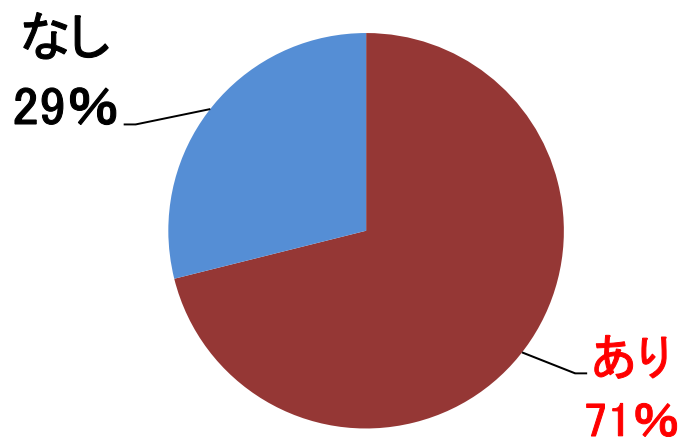
人数

参加人数



- 一部の大学からの申込みが多かった
- 本実習プログラムを利用した**単位取得目的**の学生が多かった

単位取得目的の有無



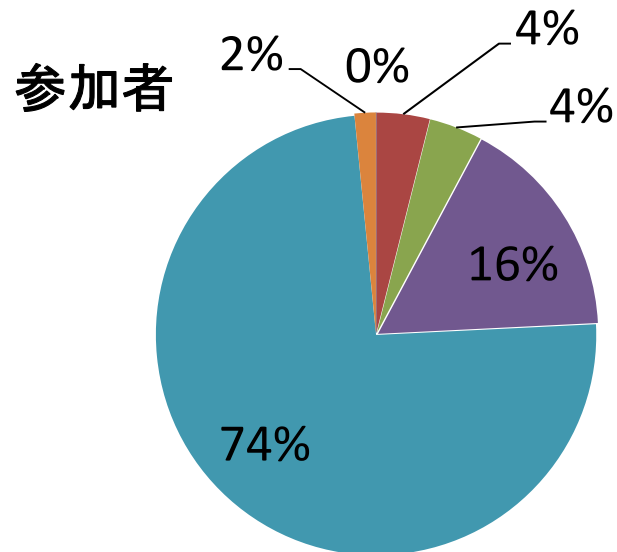
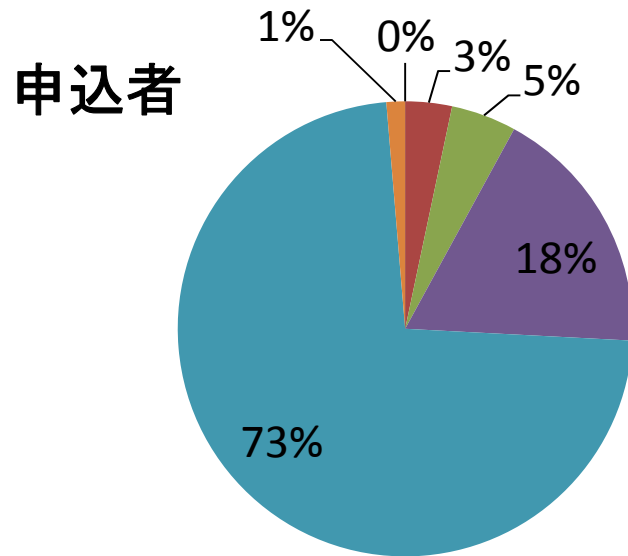
異なる目的を持つ学生が混在



産業動物臨床獣医師を志す学生のためだけの

アドバンス実習が必要

申込者および参加者の学年



■ 1年
■ 2年
■ 3年
■ 4年
■ 5年
■ 6年

■ 1年
■ 2年
■ 3年
■ 4年
■ 5年
■ 6年

申込者、参加者ともに

- 5年次が7割を占めた
- 次いで4年次が2割弱
- 低学年(2、3年次)および6年次は少数だった
- 1年次は0名であった

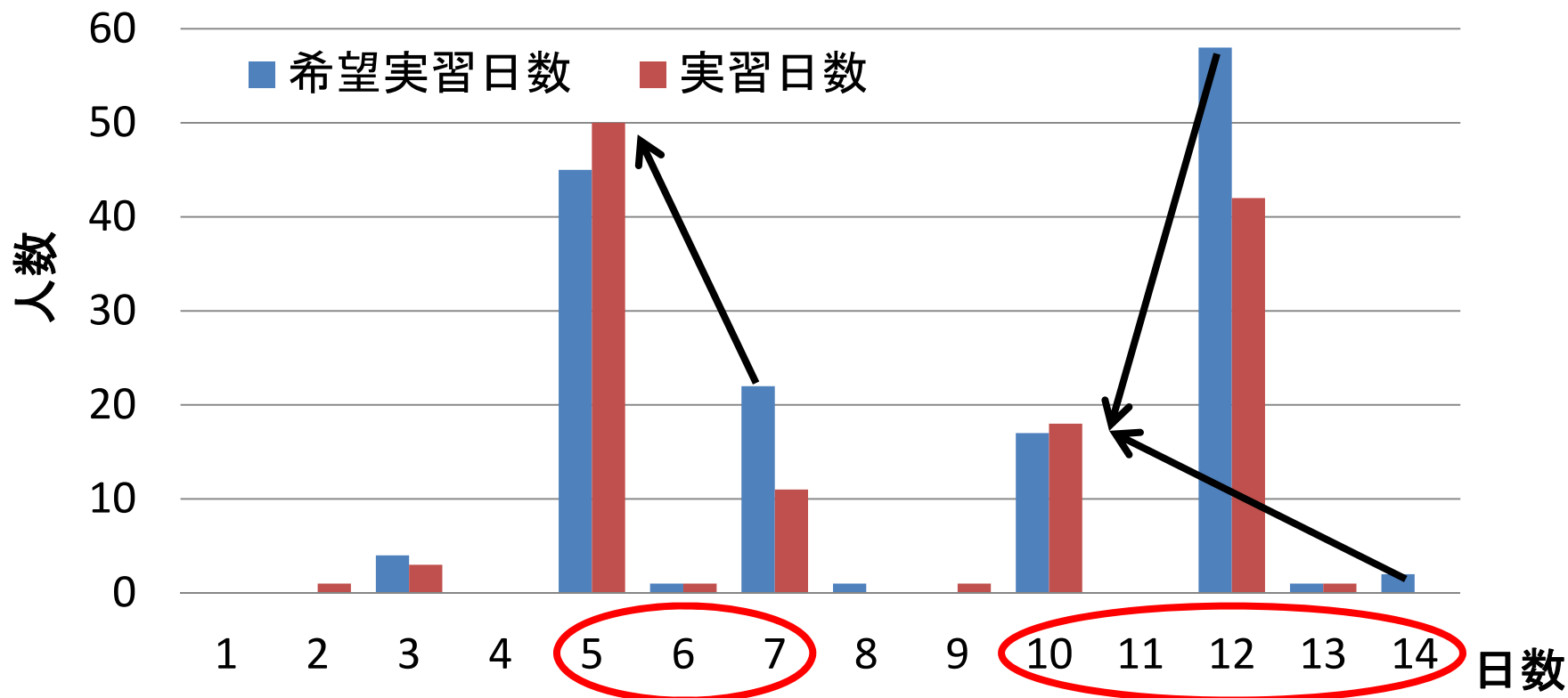
5年次が多い

- ・臨床実習への参加で単位取得
- ・就職を見据えて

低学年の参加者が少ない

産業動物臨床獣医師の育成のためには
もっと導入的な実習が必要

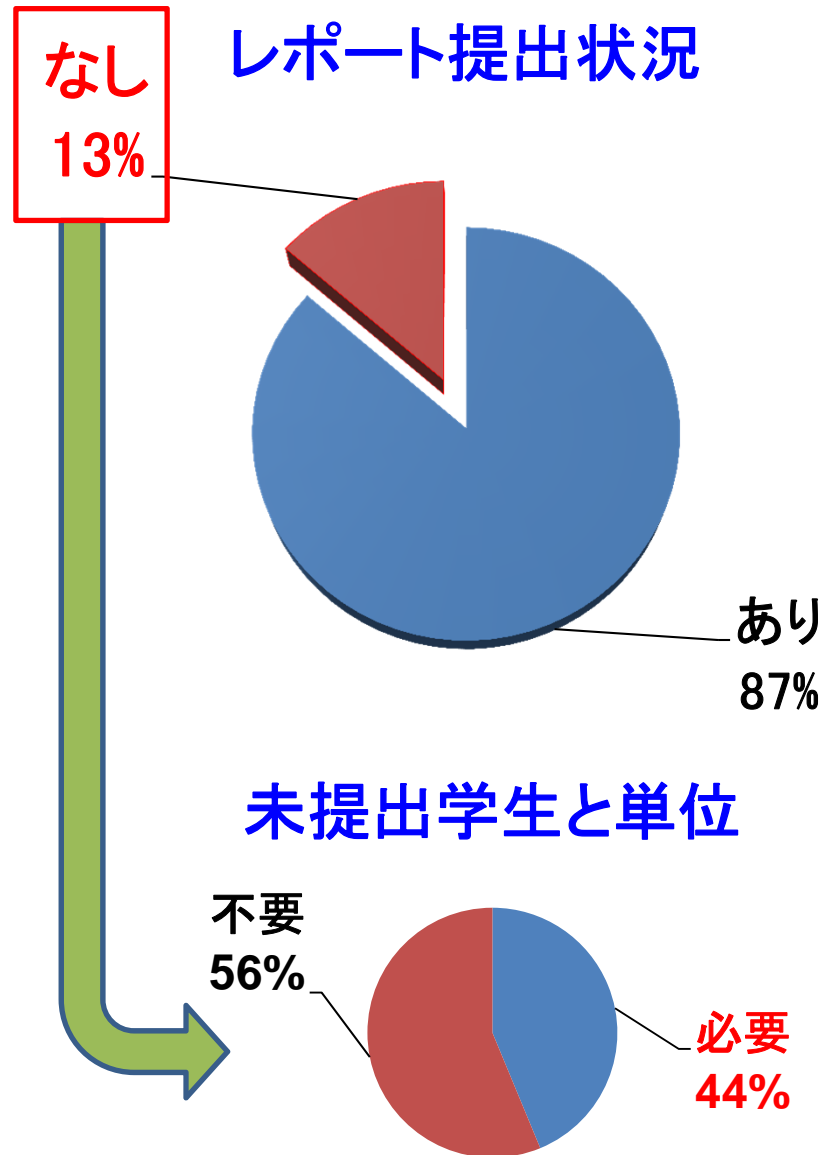
実習日数



- 実習日数は、1週間程度と2週間程度に2極化した
- 休日である土日は、実習を控えることが多く、
1週間の希望 → 平日5日間、2週間の希望 → 平日10日間
になる傾向にあった

希望に近い実習期間となった

実習報告書の提出と修了証授与の状況



- 実習日誌とアンケートの提出が、参加者128名のうち、111名(87%)あった

111名の学生に修了書を授与した

14%の学生が提出しなかった
・単位取得の目的ではあったが、修了証を必要としていない
参加のみ → 単位認定

まとめ

- 岐阜大学に窓口を一元化＝したことで、システムの効率化、と教育効果が向上した
- 産業動物臨床への興味や将来の職業として参加する学生比べより、単位取得目的の学生が多い＝く、異なる目的を持つ学生が混在していた
 - ➡ 産業動物臨床獣医師を志す学生のためだけのアドバンス実習が必要である
- 低学年の参加学生が少なかった
 - ➡ 産業動物臨床に興味を持たせるための学内での導入的な実習が必要である

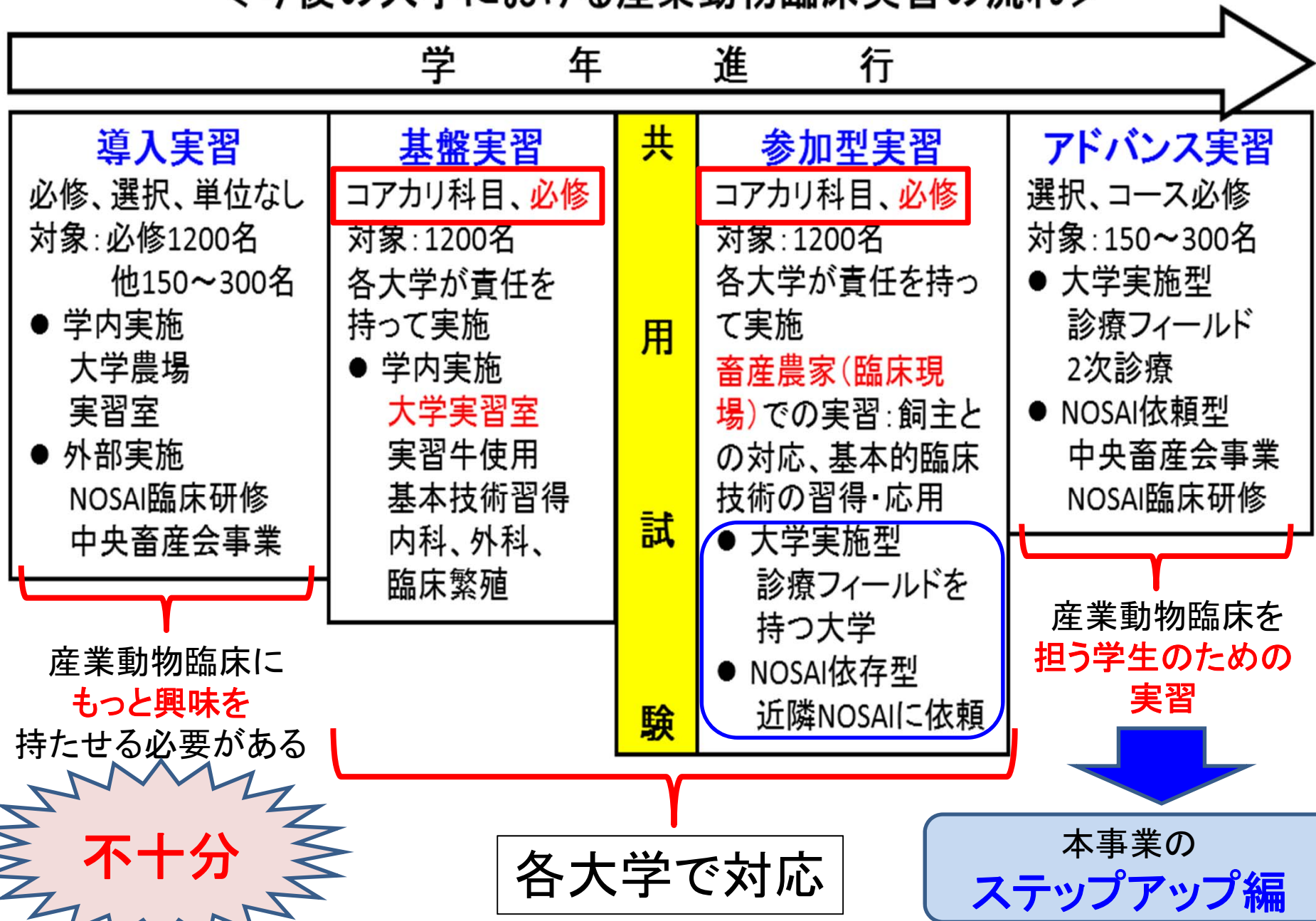
NOSAIからのご意見(抜粋)

窓口を岐阜大学に一元化したことで、
「NOSAIからの実習生や大学に対するご意見・不満」が明らかになった

- 実習態度が不真面目な実習生がいた。実習中に居眠りをしたり、スマートフォンや携帯電話をいじっていた。規律ある行動をとっていただきたい。
- 農家の家畜は大切な財産であり、牧場は個人所有の施設であることを自覚すべきである。大声を出したり畜舎の中を走ると、家畜が驚いたり興奮するので厳禁である。
- 服装には十分に留意すべきである。訪問先は、畜産農家であり、大学の実習とは異なることを自覚してもらいたい。タンクトップや派手な配色の服装もさける。化粧も汗をかくことを加味すること。
- 宿泊所の掃除等をきちんとしていかず、汚したまま帰る学生がいる。
- 5、6年生の学生であっても、きちんとした手洗いが出来ない学生が多い。外科実習等で行っているはずであり、病畜を触ったときにはしっかりと実践すること。
- 健康管理は自己責任で行い、十分な睡眠を取り、水分補給を行うこと。睡眠不足などで、実習中に居眠りをしたり、熱中症で倒れた学生もいた。

授業料を納めて受けている大学の実習とは異なることを自覚していただきたい。受け入れ側の協力があって成り立っている実習であることを、実習生自身が強く自覚していただきたい。

＜今後の大学における産業動物臨床実習の流れ＞



不十分